

令和6年度 施策・基本事業マネジメントシート（令和5年度実績に基づく評価）					作成日 令和 6 年 7 月 30 日	
政策体系	基本目標名	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		施策主管課長	産業政策課
	政 策 名	2	地域資源を活かしたまちづくり			
	施 策 名	1	中心市街地及び地域市街地の活性化			
施策関係課	文化推進課、観光推進課、都市計画課、都市整備課、道路河川課、財産活用課					塩野目 裕

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的 「対 象」	この施策は、誰、何を対象としているか ①中心市街地（佐野駅周辺地区） ②地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）	対象指標		単位	R4	R5	R6	R7	成果指標 設定の考え方	①②③中心市街地及び地域市街地（田沼・葛生）における店舗数が増加する、または減少しないことを把握することにより、活性化が図られていることが確認できるため、成果指標として採用した。	
		①	中心市街地（佐野駅周辺地区）活性化計画区	ha	96.00	96.0					
		②	地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）区	ha	192.0	192.0					
		③									
		④									
施策の目的 「意 図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか ①商業を中心とした魅力ある中心市街地を創出する。 ②地域特性に応じた生活機能の充実、活性化を図る。	成果指標（意図の達成度を表す指標）		区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の 取得方法	① 実調査による ② 実調査による ③ 実調査による ④
		①	中心市街地のメイン通り沿いの店舗数	目標	軒	320	325	330	335		
				実績		296	277				
		②	地域市街地のメイン通り沿いの店舗数（田沼）	目標	軒	83	84	85	86		
				実績		78	77				
		③	地域市街地のメイン通り沿いの店舗数（葛生）	目標	軒	47	48	49	50		
				実績		49	49				
		④		目標							
				実績							

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7
中心市街地の賑わいの創出	①中心市街地活計化計画区域	①人の交流がさかんな、商業地域となっている。	① 中心市街地における定住人口	目標 実績	人	6,801 6,934	6,759 6,705	6,718	6,677	地域市街地の特色ある発展	①田沼駅及び葛生駅周辺地区	①地域の中心として暮らしやすく、特色を活かした地域となっている。	① 地域市街地（田沼）の定住人口	目標 実績	人	8,702.0 8,774	8,705.0 8,820	8,708.0	8,711.0
			② 空き店舗活用件数（累計）	目標 実績	件	60 67	65 78	70	75				② 地域市街地（葛生）の定住人口	目標 実績	人	1,963 1,921	1,951 1,809	1,940	1,928
			③ 市道57号線、駅南公園区画整備率	目標 実績	%	88 26	100 33	－	－				③ 空き店舗活用件数（累計）	目標 実績	件	4 2	6 3	8	10
			④ 中活施設・公共交通機関年間利用者	目標 実績	人	140,000 166,659	150,000 182,153	160,000	170,000				④	目標 実績					
			①	目標 実績									①	目標 実績					
			②	目標 実績									②	目標 実績					
			③	目標 実績									③	目標 実績					
			④	目標 実績									④	目標 実績					

3. 施策の目標達成度評価

施策	令和5年度施策の取組方針					施策の取組方針・成果指標達成状況				
	・コンパクトシティの推進に向け、まちなか賑わい創出のため中心市街地内の拠点施設を結んだ活性化事業を推進する。 ・中心市街地、地域市街地の空き店舗調査を実施し、空き店舗情報としてマップを作成、空き店舗バンクの構築を検討する。また、引き続き各団体等と連携し地権者の意向確認、利用希望者とのマッチングを進める。 ・市道佐野57号線の整備にあたっては、早期完了に向け駅南公園西土地区画整理事業の建物等の移転・補償、工事を進める。 ・地域おこし協力隊員や大学との連携のもと、地域市街地において、活性化に向けての現地調査、イベントを実施する。 ・株式会社足利銀行佐野支店跡地は、さのまちづくり株式会社等の民間活力を活用し整備方針を決定する。					取組方針	□ 全て達成	【 施策の取組方針達成状況 】 ・6月開催のさのクールアースデーでは、ばるぼーと交流広場をメイン会場とし、市役所市民活動スペースにおいても展示イベントを開催した。1月開催されたイベント（うんめえもんまつり）では、ばるぼーと、市役所、まちなかサロン（商工会議所）を結んだイベントが開催された。 ・中心市街地（佐野駅周辺）及び地域市街地（田沼・葛生駅周辺）での空き店舗調査を実施し、中心市街地においては店舗状況を地図上にデータ化している。地域市街地の店舗状況については紙ベースでの作成となっている。空き店舗バンクについては引き続き検討を行った。市内不動産業者に対し、空き店舗活用補助事業説明及び制度の周知を図り、数件の空き店舗情報を得ることができた。 ・市道佐野57号線の整備について、道路事業（市道佐野57号線道路改良工事）と区画整理事業（駅南公園西土地区画整理）との一体で整備を行っている。 ・地域おこし協力隊により、田沼駅周辺で年3回のイベントを実施（「ためまどまんなかマルシェ」2回、「まるごとミュージアム」1回）。また、宇都宮大学生との連携事業では「懐かしの味復刻プロジェクト」と題し、田沼初午祭にあわせ研究発表を行った。 ・株式会社足利銀行佐野支店跡地の活用案について、さのまちづくり(株)から報告書が提出された。今後報告書について精査する。		
							□ 一部未達成			
						成果指標	□ 全て達成	【 施策・基本事業の成果指標達成状況 】 ・中心市街地及び地域市街地の定住人口では、葛生が前年と比べ112人減少しており目標より大きく下回った。 ・空き店舗活用件数は、補助対象区域の拡大や不動産事業者への啓発強化により中心市街地では前年実績より11件増加しており、主に空き店舗活用補助金を活用しての出店となっている。（中心市街地活性化推進事業） ・市道佐野57号線の道路事業については、電柱移転に不測の日数を要したことにより道路改良工事が繰越となり令和6年度完了予定であるが、区画整理事業の進捗に遅れが生じているため実績値が32.5%の状況である。（市道57号線道路改良事業） ・佐野駅前のばるぼーとの利用者及び公共交通機関の年間利用者は、コロナの影響も薄れたことで、昨年の利用実績者数と比べても約15,000人の増加となった。公共交通（バス）全体の利用者数についてもコロナ禍以前に戻りつつある。（佐野駅前交流プラザ指定管理事業） ・地域市街地の特色ある発展について、地域市街地の定住人口では、葛生が前年と比べ112人減少しており、目標を大きく下回った。（地域市街地活性化事業）		
							□ 一部未達成			
							□ 全て未達成			

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等		施策の成果向上に向けての役割分担		
	・コンパクトシティの実現に向け、中心市街地等への都市機能の集積や居住の誘導を図る必要がある。 ・今後の中心市街地のあり方については、地元の商工事業者、有識者から、民間主導に重点を置いた取組を行うべきとの意見が出されている。 ・民間事業者を中心にまちなか活性化のための新たな開発整備の動きがある。 ・市議会の一般質問において、地域市街地の活性化のための取組強化（R3. 2月）、中心市街地と県道拡幅との関連での空き地、空き店舗の有効活用（R3. 6月）の意見が出されている。 ・令和6年4月、佐野駅東側の大正通り周辺の整備について市議会から政策提言が出された。	市民	事業所		行政
			・日用品等は、可能な限り各市街地内で確保する。 ・各市街地内の土地所有者については、住宅、店舗として有効な土地活用を進めると共に、買い物客への効率的な駐車スペースの提供を行う。 ・各地域の特色を活かしたまちづくりに積極的にかかわる。	・商工団体等が中心となって、活性化の具体的方策を打ち出す必要がある。 ・魅力ある店舗への創意工夫や利用可能な空き店舗の活用を積極的に行う。 ・各店舗等で取り扱う商品の独自性を高めることや、新鮮で安価な商品の提供、更には他業種との連携を心掛け活性化につなげる。 ・中心市街地及び地域市街地活性化のため、さのまちづくり(株)及びまちづくり葛生(株)の積極的な活動が期待されている。	・中心市街地で必要となっているインフラ整備を計画的に進める。 ・地域市街地内では、既存ストックを十分活用しつつ、生活拠点として必要な住環境を確保する。 ・商工団体等と一体となって、各市街地の活性化施策を検討し、効果的な事業を展開する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題		今後の方向性
・新型コロナウイルスが5類に移行となり、中心市街地でのイベントも徐々に開催されており、中心市街地の拠点施設を結んだイベントでは多くの集客があった。そのような中、さのまちづくり(株)や駅前の店舗（空き店舗活用補助活用店舗）と連携した回遊イベントを実施することができ、参加店舗からはイベント情報の共有を要望されている。今後は参加店舗数の増加に向け回遊イベントの促進を図る。 ・空き店舗調査では、中心市街地はさのまちづくり(株)に業務委託をし店舗状況を地図上に落としたデータ資料を作成した。田沼・葛生駅周辺での空き店舗調査では、紙ベースでの資料となっている。中心市街地及び地域市街地の空き店舗について、所有者と利用希望者とのマッチングまでには至っておらず、今後空き店舗バンクの構築とともに検討を続ける。 ・前年度から市内不動産業者に対し、空き店舗活用補助事業の説明を行い制度の周知を図っており、今年度では数件の空き店舗情報を得ることができ、窓口に来る相談者への情報提供につながっている。 ・市道佐野57号線の整備にあたっては、道路事業（市道佐野57号線道路改良工事）と区画整理事業（駅南公園西土地区画整理）と連携をしながら一体で整備を行っており、道路事業については令和6年度完了予定であるが、区画整理事業の進捗に遅れが生じているため実績値が32.5%の状況であり、令和10年完了予定となっている。 ・地域市街地の活性化では、地域おこし協力隊員や宇都宮大学との連携のもと、田沼駅周辺の賑わい創出に向けマルシェの開催や地元商店や住民との意見交換を実施した。 ・地域おこし協力隊員の取組では、田沼中央公園での第2回マルシェの開催には合計約1,000人、田沼ふるさと館での文化イベントに約150人の来場者を集めワークショップを実施できた。今後は引き続き田沼駅周辺でのイベントを実施するとともに、葛生駅周辺での賑わい創出事業につなげる。 ・宇都宮大学生との連携事業では、田沼の「懐かしの味復刻プロジェクト」と題し、既に閉店した店舗の懐かしの味にスポット当てたまちづくりの提案をしてもらい、田沼初午祭に合わせ研究発表を行った。次年度では3年間のプロジェクト期間が終了することから、令和5年度の提案をもとに実践を図る。 ・（仮称）まちなか活性化推進協議会について、さのまちづくり(株)主導で設立準備のためのワーキンググループを立ち上げた。 ・(株)足利銀行佐野支店跡地の整備方針について、さのまちづくり(株)から年度末に跡地活用の報告書が提出されたが、佐野市としての整備方針の決定に至っていない。今後、提出された報告書の内容を精査し整備方針を検討していく。 ・令和5年度の決算額は83,378千円となり、令和4年度の決算額84,952千円に比べ1,574千円の減額となった。その主な要因は新型コロナウイルス感染症対策としての佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業費の減によるものである。	【令和6年度で解決する課題】 ・令和6年度で期間終了となる地域おこし協力隊について、次年度採用の有無の検討 【令和7年度以降にも引き継がれる課題】 ①中心市街地での集客の推進とコンパクトなまちづくりに向けた取組の実現、並びにまちづくりの先導的役割を担うさのまちづくり(株)との連携強化 ②中心市街地及び地域市街地における空き店舗の利活用の推進 ③市道佐野57号線道路改良事業と駅南公園西土地区画整理事業の推進、及び佐野駅南地区のスポンジ化への対応 ④(株)足利銀行佐野支店跡地の活用 【令和7年度重点課題】 ⑤中心市街地活性化拠点施設を活用した賑わい創出事業の促進		①中心市街地活性化基本計画の将来像「活力あふれる暮らしやすいまち」の実現に向け、さのまちづくり(株)や地元事業主、地域団体と連携を密にし、空き店舗活用やイベントの開催等、賑わい創出事業に取り組むとともに、コンパクトなまちづくりに向け、都市機能の集積や居住の誘導につなげる。また、まちづくりの取組の効率性・効果性を高めるため、さのまちづくり(株)への経営基盤整備及び強化策を協議する。 ②空き店舗バンクの構築とさのまちづくり(株)や不動産事業者との連携により空き店舗の活用を推進する。また、宇都宮大学と連携し、葛生駅周辺の賑わい創出に向けた取組を進める。 ③市道佐野57号線道路改良事業・駅南公園西土地区画整理事業は、道路改良工事と区画整理事業と同一路線での事業であり、連携をしながらの進捗を図ることとなるが、先行する道路事業の完了により区画整理事業の促進につなげる。また、中心市街地活性化基本計画の戦略的まちなか活性化エリアの活性化につながる具体策をとりまとめる。 ④民間主導による官民連携した「リノベーションまちづくり」の推進として、(株)足利銀行佐野支店跡地を中心とし、まちなかの遊休不動産や文化、歴史等を活用したエリアの価値を高めた活性化につながる具体策をとりまとめる。 ⑤アフターコロナにおいて、既存のイベントと連携しまちなか活性化ビルやばるぼーと、まちなか賑わい空間、並びにまちなかサロンの拠点施設の有効活用を図るとともに、まちなか周辺の空き店舗活用事業者や地元住民等とが協働し賑わいを創出する仕組みを構築する。